

【動画部門】作成について

7月18日（金）までにエントリーいただき、以下のとおり作成の上、作品提出いただきます。

1 作品テーマ

以下の趣旨（エピソード）に沿った内容で、福祉・介護に関わる利用者と介護者の物語動画をチームで作成してください。

チーム区分	趣旨（エピソード）
学生チーム	【課題事例】について、丸山さんが笑顔で生活できるように支援しましょう。
福祉職員チーム	介護職が中心となって、介護や生活支援を要する人の夢や想いを実現するため、その人らしい将来の姿を予測した自立につながる介護エピソード

2 動画の構成等について

基本的な動画の構成	1 オープニング → 2 本編 → 3 ポイント説明 → 4 チームメンバー紹介
動画出演者	チームメンバーで介護者役・利用者役を演じて作成していただきます ※事業所の利用者の同意があれば、利用者の出演も可とします
データ形式	MP4フォーマット（スマホ動画の標準フォーマット）で作成してください
作品時間	5分～6分間以内（厳守） ※指定時間外の作品は審査対象外です
題名等	動画作品提出の際には、必ず「作品の題名」と「あらすじ（100文字程度）」を作成してください
留意点	○動画は、チーム員による支援場面が中心で、CG・アニメーション等の活用も自由で、 本編の中にチーム員による介護実技を必ず含むようにしてください。 ○カメラの移動・ズーム、BGM、字幕の挿入等も自由とします ○素材・BGMは、著作権上問題のないものを使用してください ○自作の未発表作品が条件です

3 作品の提出期限等について

作品の提出期限は下記のとおりです。（提出方法等は、別途事前エントリー後にご案内します）

- ・学 生 チ ー ム：10月6日（月）
- ・福祉職員チーム：9月5日（金）

審査員による審査の視点（参考）

- ✓趣旨に沿った内容で、福祉のしごとの魅力が表現されているか。
- ✓映像や画像に見やすさや工夫があり、分かりやすい作品であるか。
- ✓自立支援と尊厳の保持の視点で、利用者が自分の生活を自らの意思で選択・決定することができるような支援かどうか。その人らしく暮らせるように配慮できているか。
- ✓誰にでも理解できる内容と表現で、小中学生・高校生に伝わる内容で、福祉の仕事に興味を持てる内容となっているか。

動画部門の審査観点

	観 点	主なポイント（例示）
エピソードの趣旨に沿った内容	【アセスメント】 対象者の状況を客観的にアセスメントし、対象者の「意思決定」につなげようとしたか	・ 尊厳の保持 ・ プライバシーの配慮 ・ 意思決定支援の過程の正確性 ・ 対象者の背景や価値観を知り、意思や意向を尊重 ・ 支援前の説明と同意
	【実行】 対象者の「意思決定」に基づき、「自立」につながる適切な支援ができたか	・ 自分らしい生活を自らの意思で選択し決定 ・ 本人の意思が実際に反映された支援の実行 ・ その人らしく暮らせるように配慮した支援の実行
	【実現】 職員の支援により、対象者の将来につながる「自立」のきっかけとなったか	・ 対象者の個々のニーズや希望に沿った自立支援となったか ・ 対象者の将来を見据えた自立の姿が見える支援であったか
中学生・高校生に伝わる内容	【興味・理解】 福祉の仕事に興味を持てる内容であったか	・ やりがいと感謝が伝わる内容 ・ 介護に携わってみたいと思える内容 ・ 人と関わることの喜びを感じる内容 ・ 誰にでも理解できる内容と表現
	【未来への期待】 介護の未来の姿が伝わるか	・ 作業の効率化と対象者の生活の質向上の両立 ・ ICT 等の活用による未来の介護への期待 ・ 働きたい職場であるか
映像	【表現力】 映像の見やすさや工夫がある	・ 映像や音量が適切 ・ ストーリーの構成が分かりやすい

福祉のしごと PR コンテスト 2025 学生チーム

【課題事例】 丸山さんが笑顔で生活できるように支援をしてみましょう。

1. 基本 情報	丸山さん 88歳 女性 要介護3 現在、介護老人福祉施設入所中 入所期間;3ヵ月 脳梗塞の後遺症で軽度左片麻痺がある。 性格は穏やか。他の人と交流する時には笑顔がみられる。 日中は、居室やホールでテレビを見て過ごすことが多い。
2. 生活歴・ 家族構 成	丸山さんは、農家の長女として生まれ育った。高校卒業後、結婚し、夫婦でりんご農家を営んでいた。70歳で息子夫婦にりんご農家を引き継いだ後、公民館で近所の友人たちと趣味の絵手紙や風景画を作成したり、夫や友人たちと買い物や温泉や旅行に出かけたり楽しんでいた。丸山さんは、いつも身ぎれいでおしゃれをし、毎日の入浴も欠かさずに行っていた。夫の死後、息子夫婦と孫と同居し、料理や家事を行い孫2人の成長を楽しみにしていた。しかし、85歳に自宅での入浴後、脱衣室で着替えている最中に脳梗塞を発症して入院となった。退院後、車いすでの生活となり、徐々に介護の手間がかかるようになった。そのため、3か月前から介護老人福祉施設に入所となった。
3. 生活の 様子	【移動】車いすを使用。屋内は自走しており、屋外は、介助により移動している。 【食事】ホールで他の利用者と食べている。食事を提供されることはありがたいが、調理しないことに物足りなさを感じている。 【排泄】居室内のトイレを使用し、立位やズボンの上げ下ろしは一部介助を受けている。 【入浴】週2回、チェアタイプの特設浴槽を使って入浴している。「火曜日と金曜日だけでなく、できればもっとお風呂に入りたい」と話している。 【着脱】一部の介助により着脱できる。服装に気を使っているが、お気に入りの衣服は自宅にあるため、施設では着ていない。 【居室】個室を使用している。整理整頓がされているが、初めての入所で家から持ってきたものが少なく殺風景である。毎日の習慣であったお仏壇へのお参りができないことをさみしく思っている。 【対人関係】自分から他の人に話しかけることは少ない。家族に会いたいと思っている。 【余暇活動】ホールに一人であることが多い。「日中、テレビを見ているだけなので、他の人と何か楽しいことをしたい」「施設にいても、もっと他の人に役立つことがしたい」「屋外にも出てみたい」等の希望がある。 【家族の思い】りんご農家で忙しく、家で介護できずに申し訳ない。できる限りの支援を行いたい。丸山さんは、社交的であるが、人に慣れるまでは遠慮がちである。